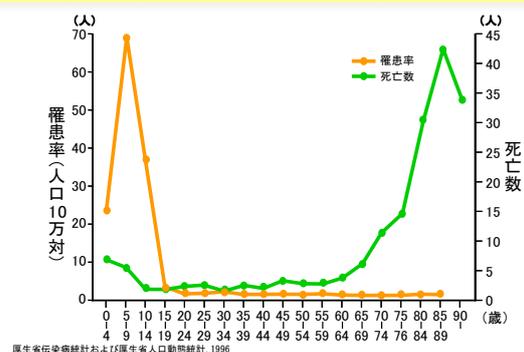


一般のかぜはのどや鼻といった上気道の炎症で、高熱が出ることはあまり多くありませんが、インフルエンザは 39～40℃の熱が急に出て、上気道の症状のほかに関節痛や筋肉痛、全身倦怠感などの重い症状が出ます。インフルエンザは15歳以下の小児がかかりやすい一方で、インフルエンザによる死亡率は高齢者で高くなります（右図参照）。高齢者と小児のインフルエンザ予防接種に自治体が補助を出すのは、この両者をインフルエンザから守る狙いがあります。

## インフルエンザによる年齢別罹患率と死亡数

1. インフルエンザ罹患率は小児に高く、死亡数は高齢者で高い。
2. インフルエンザは「老人の最後の灯火を消す病」とも言われています。



ワクチン接種は高齢者の死亡の危険を約80%減らす

2009年には新型インフルエンザが世間を賑わせました。幸いなことにこの時のウイルスの毒性はそれほど強くなく、現在ではA型インフルエンザの一種として扱われています。しかし今後も別な新型インフルエンザの発生が心配されます。鳥のインフルエンザウイルスは通常ヒトには感染しませんが、大量のウイルスを吸い込むと感染してしまふことがあります。その感染者に通常のヒトのインフルエンザウイルスが同時に感染をおこすと、細胞内で鳥とヒトのインフルエンザウイルスのDNAが混じり合っ、ヒトにも容易に感染をおこす鳥インフルエンザウイルスに変異してしまふ可能性があります。養鶏場などで鳥インフルエンザが出ると全部の鳥を殺処分するのはこれを防ぐためです。重症型の鳥インフルエンザではのどや肺以外にも腸や筋肉などでもウイルスが増殖するので、死亡率が高くなります。

表紙の解説ですが、インフルエンザウイルスは8時間で100倍に増えます。たいしたことないと感じる方もいるかもしれませんが、お金にたとえると増殖の速さが実感できると思います。朝8時に1円を拾いました。ポケットに入れておいたら夕方4時に100円になりました。帰宅して机の上に置いておいたら夜中の12時には1万円に、翌日の朝8時には100万円になり、夕方4時には1億円になってしまいます。お金だったらうれしいですが、1日ちょっとでこんなにインフルエンザウイルスは増えてしまうのです。

